

飯伊民医連 だより

7月

2023
No.249
隔月刊



新しい医師 を迎えて

昨年よりかやの木診療所で診療をしております福留恵子医師が、出産を無事に終えてこの5月から復帰しました。福留医師は高森町出身、高知大学医学部を卒業して諏訪中央病院で初期研修、名古屋大学総合診療科で後期研修を修了しました。東京はくと医療生協王子病院を経て高知大学家庭医療学講座で教員として医学教育に携わる一方で、高知県内のへき地診療所で医師としての経験を積みました。

家庭医療専門医の資格を持ち、子どもから高齢の方まで幅広い世代と様々な疾患に対応、専門医でなければ治療が難しいと判断されれば、適切な医療機関へご紹介します。小さな怪我



や皮膚科的な症状はもちろん、「こんな症状があるけれど、何科を受診したら良いか分からない」そのような時にまず受診してください。病気に限らず、子育てや介護など、家庭内の悩みごとに一緒に解決の糸口を探す、それも家庭医としての重要な役割の一つです。予防接種や通常の小児科に加えて不登校など思春期に関する診療、段階的には訪問診療も再開していきたいと考えています。



地域の方々の強い想いでつくられ、地域の方々に寄り添いながら歩んできたかやの木診療所ですが、福留医師を迎え、家庭医としての専門性を発揮した新たな医療を展開し、より一層地域の方々の期待に応えることのできる診療所を目指します。

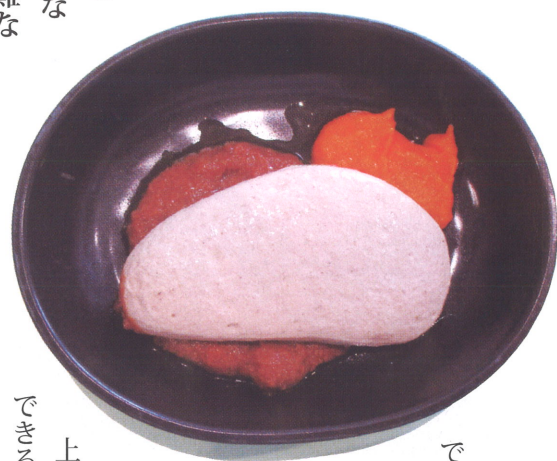
皆さんのお声が診療所発展の大きな糧となります。今後ともお気付きの点がありましたらお寄せいただければ幸いです。

かやの木診療所事務長 福澤 陽介

希望の光を

求めて

今回お話しを伺った矢部信明さんは神奈川県在住の方で、2022年11月敗血症を契機にして、摂食障害と運動機能低下を起こし寝たきり状態となつてしまい、主治医からは回復は困難なので自宅での看取りを宣言されました。



で入院した矢部さんのリハビリが始まり、初期のリハビリ目標は「口から食えること、立ち上がるこ

とてもおいしくて、食事に力を入れていた病棟の栄養科の食事だと感心したそうです。

退院が決まって、自宅での生活はどうするか検討と対策が始まりました。地元在宅支援のスタッフも巻き込んで、リモートで会議を行い、家の段差の解消や自宅内の環境の整備など細かなことも検討がされました。矢部さんは以前入院した病院では退院後の生活について全く話がな

ったことの違いに驚きました。

しかし息子さんは回復の見込みを捨てきれずネットで摂食嚥下リハビリと検索し、その治療を行っている病院が神奈川県内にはなく自宅から一番近い病院として健和会病院を見つけ連絡をとりました。電話で対応したのはリハセンターの北原しのぶ次長で、医師が出張で不在だったため、翌週に医師に報告・相談し、自宅へ往診に行くことになりました。

ますよ」との言葉に、矢部さんと家族は希望をつなげ健和会病院に入院を決意しました。入院前にはいろいろな方に相談されたそうですが、民医連の無差別平等の医療に「そんな病院があるならぜひ行ってみたい」との言葉に押し付けられ健和会病院に入院しました。

12月19日に入院し嚥下リハ

で記憶に残っているのは、回復期リハ病棟のホールで平行棒につかまり立位を初めてできたときでした。ホールにいた福村医師が拍手してくださり、看護師さんも「やったね」と励ましの言葉をかけてくださり、とてもうれしく励みになったそうです。毎日のリハビリに取り組み順調に機能回復が進み、一か月過ぎたりハカソフアレンスで、目標が「常食を食べ、歩くこと」に変更になりました。



現在の在宅生活は、屋内は杖を使用せずに歩行し、食事は側臥位で摂取し、機能維持するために訪問リハと通所デイに通っています。矢部さんは今回の入院で、医師、看護師、セラピスト、栄養科等の皆さんが協力して患者さんのために医療を行っていることに感謝していただきました。

社会医療法人健和会

法人技術部長

佐藤 功

福村直毅医師が神奈川県

自宅を往診し嚥下内視鏡などで診察し、回復が可能と診断しました。「きつとよくなり

回復で最も大事だったのは食事で、矢部さんの記憶に残っているのがまだ嚥下食の時に食べた「ハンバーグ」。嚥下食なのでひき肉でないのですが、

中庭に

「うたごえ」

が響く



手をつなぐ杜の会の皆さんによる『うたごえ』が3年ぶりに再開しました。新型コロナウイルス対策のため、利用者さんは施設建物内から、杜の会の皆さんは中庭からの『青空うたごえ』に形を変えました。初回の4月28日は老健の中庭にて、杜の会より17名が参加しました。

手作りの歌集15曲を歌い、その中でもコロナ禍前に歌う機会が多かった「信濃の国」は盛り上がりがありました。利用者さん達からは「大きな声は出ないけど、節（メロディ）はわかるので一



緒に歌えた「歌うとスカッとする」と喜んでいました。手をつなぐ杜の会の皆さんも「楽しかった。建物内の利用者さんにスピーカーで音が聞こえたので盛り上がり良かったです」と感想がありました。

特養はやしの杜では5月26日に『うたごえ』を行ないました。老健と特養を交互に月1回行う予定です。コロナ禍前のように一緒に歌うことはできませんが、「うたごえ」は皆を笑顔にします。これから手をつなぐ杜の会の皆さんと一緒に利用者さんが楽しんでいただける企画に取り組んでいきたいです。

社会福祉法人林の杜 事務

寺沢 江理

月に一度開催している「ゆいの集い」は、地域の方々とゆいの里が交流を深めたいとの思いから発足し現在も活動を行っています。計画立案と当日の運営は、法人内各部署の職員が交代で行っています。それはゆいの里の職員全員が、地域の方とより深い関係性を築ければという願いからです。

コロナ禍において思ったように活動できない日々も続きましたが、最近では茶話会を開いてお話の花を咲かせたり、時にはおいしいおやつを作ったり、野菜を使った絵手紙づくりを行うなど毎月いろいろな活動を行っており、参加者の方々からも楽しみにしているといったお声をいただいています。

春の陽気が気持ちよくなってきた今年の4月は、下伊那郡阿智村方面へお花見ドライブに出かけました。

ゆいの集い
開催



今回のお目当ては「黒船桜」。ペリー来航時に植えられた村指定天然記念物の一本桜です。小雨が降る中ではありましたが、枝ぶりが良くとても一本の桜とは思えない素晴らしい桜を見ることができ、参加者と同行した職員ともにパワーチャージ完了。見頃間近な花桃も見に行き、温泉横の食堂で美味しいお昼ご飯をいただきました。

いままで大切にしてきた地域の方々とつながりを全職員がこれからも大切にしながら、ゆいの集いの活動を続けていきたいと思えます！

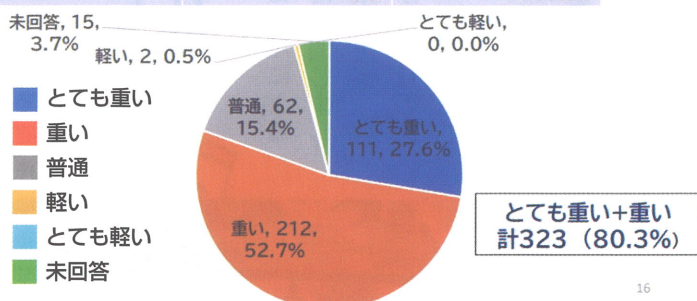
介護相談センターゆい

麦島 美保

●2022年10月以降、医療費が2割になってからの負担感

(10月から1→2割 402人)

負担割合	人数	割合
とても重い	111	27.6%
重い	212	52.7%
普通	62	15.4%
軽い	2	0.5%
とても軽い	0	0%
未回答	15	3.7%
計	402	100.0%



●3年後、激変緩和措置(配慮措置)が終了し完全2割化した場合(複数回答)

(10月から1→2割 402人)

回答項目	人数
今まで通り受診できと思う	207
受診できなくなるかもしれない	78
受診回数・薬を減らすと思う	115
受診できなくなると思う	12
回答なし	31

*自由記載より

- 今は高血圧のみの受診なのであまり負担は感じないが、今後病気が増えた時、重病になった時には重く感じられるようになるかと思う。
- 今は受診が少ないけれど、この先どうなるか不安はあります。
- 命にかかわることですので、負担が増えたからといってやめることはできません。多少無理をしても今まで通りやるしかありません。

●3年後の措置終了に直接言及した記載は無かったものの、将来、現在よりも受診が増えることを心配する声は複数あり。

●「受診できなくなるかもしれない」に78人、「受診回数・薬を減らすと思う」に115人が回答していることを重く受け止める必要がある。

●3年間の激変緩和措置(配慮措置)について(複数回答)

(10月から1→2割 402人)

回答項目	人数
手続きしていない	225
手続き済	108
手続きの仕方がわからない	107
手続きが煩雑で手間取った	12
回答なし	31

*自由記載より

- 高額療養費の緩和措置の手続きの仕方がわからない。
- 高額療養費の手続きの仕方がわからない。詳しく教えてほしい。

●402人中、「手続き済」と回答したのは108人(26.9%)、「手続きしていない」と回答したのは225人(56.0%)。

●402人中、107人が(26.6%)が「手続きの仕方がわからない」と回答している(複数回答)。手続きの仕方がわからないために、手続きをしていない(できない)という人は一定数存在すると考えられる。

75歳以上の方から1200通を超える回答を得ました。

昨年10月より75歳以上の医療費の窓口負担が1割から2割に引き上げられました。対象は、単身世帯の場合、年金収入含めた合計所得が200万円以上、複数世帯の場合、320万円以上となっています。長野県内では実に69,789人、75歳以上の約20%の方が「2割」の該当となっています。この間の、物価高騰と長引くコロナ禍の影響による経済状況の悪化、さらに年金支給額の引き下げなどによって、特に高齢者の皆さんの暮らしは大変厳しいものとなっています。そうした中で、高齢者の医療費窓口負担が1割から2割、つまり、突然2倍に引き上げられることになりました。これは、非常に重く大変な負担です。長野県民医連では、この実情をよりリアルに把握するため、県内の民医連加盟医療機関においてアンケート調査を実施し、75歳以上の方から1200通を超える回答を得ました。

アンケート結果では10月から2割に増えた方が402人で、そのうち負担がとても重いまたは重い方が323名、80.3%となっています。激変緩和措置終了後に受診ができるか不安を感じている方が半数に上っています。また激変緩和措置の手続きができていない方は108名で、そのほかの方は手続きができていない等もわかりました。

「2割の負担は重いけれども、持病で通院しているので医療費を削るわけにはいかない、他の支出を削ってなんとかやりくりしている」「年金も減らされ生活は大変厳しい」といった声が多く寄せられ、中には「死んだ方がいい」、「ころすのか」といった悲痛な声も寄せられています。

これらの事例と実態は憲法25条で保障した生存権を侵害するものであり、改善が求められるべきであると考えます。いつでも、どこでも、誰もが、安心できる良い医療と福祉を受けられるようにするべきです。

アンケートで明らかになった実態をもとに75歳以上の医療費窓口負担2割化を中止する署名を取り組みます。より多くの皆さんにご協力をお願いします。

飯伊民医連事務局次長 佐藤 功

HPH委員会主導で飯田やまびこマーチに4年ぶりに参加しました。ゴールした参加者に運動直後の血圧を知ってもらうため、看護師が自宅での平常値の血圧を聞き取りながら計測を行いました。他にも転倒リスクなどを知ってもらうためバランス能力、歩行能力のテストを行いました。40キロを完歩した80代ご夫婦は「全国のマーチングイベントに参加することが趣味で先週は九州

やまびこマーチ

4/22(土)・23(日)

で30キロ歩いてきた」など、参加者との交流もありました。参加した職員からは「いろんな人と話せて楽しかった」と感想がありました。

HPH委員会では地域の方々の健康水準向上を目指し今後、市内の商業施設などで健康チェック、体力測定を計画しています。お見かけの際はぜひお立ち寄りください。

健和会病院HPH委員会

寺澤 由弘



新しく理事長・院長が

就任しました



社会医療法人健和会では、6月1日より健和会病院長に塚平俊久医師が、6月17日の法人総会にて、和田浩医師が理事長に就任いたしました。新体制にて地域の方々の要求に応え、法人各事業所の運営を進めてまいります。医療・介護をとりまく情勢はまだまだ困難が続きますが、共同組織をはじめとする地域の方々とともに、社会保障制度改善の運動を挙げ、安心安全の医療・介護を実践してまいります。長らく院長、理事長を務めていただきました牛山雅夫医師は理事として今後も健和会を支えていただきます。

健和会法人事務局長 小田 俊政

NPO法人ひだまりが通常総会を開催

弱い人の立場に立った法人運営を続けよう

NPO法人ひだまりは5月31日に通常総会を開催し、2023年度の事業計画などを決定しました。

介護事業所など地域全体にコロナ感染が広がった昨年7月、ひだまり施設内でもクラスターが発生。欠勤者が増え続け、事業継続が危ぶまれましたが、事業所間で協力し合い、法人の自力で何とか危機を乗り越えた経験が事業報告の中で紹介されました。

近年需要が高まっている「子育て支援事業」については、コロナ禍で人との接触を避けることから子育てに関する不安を誰かに相談する機会が減り、ひだまりへの相談件数が増えたことが報告されました。生活困難ケースには市の担当者も同席するミーティングで共有し対応していることも確認されました。

林憲治理事長は、「新体制になり1年が経過した。経営



はわずかだが黒字になった。困っている人を低料金で受け入れたことは、設立からの理念である弱い人の立場に立った法人運営が継続できたことのあかし。職員不足が深刻だが、関係する皆さんと協力して事業を進めたい」と述べました。

飯伊民医連事務局長

織野 孝司



ふたりツラ

手をつなぐ杜の会 4年ぶりに総会を開催

などの活動だけではなく、総会も3年以上中止となっていました。この間も役員会を定期的に開催し、植栽委員会による庭の整備などの活動をしてきました。2022年度は、原発再稼働反対スタンディング

6月11日に第18回総会を開催し、32名の参加がありました。コロナ禍のため、うたごえ喫茶

グアピールに法人と共に参加したり、ボッチャの体験をしたり、コロナ禍以前のような活動が少しずつできるようになったと報告しました。写真は、総会の記念企画「劇団ふたりツラ」の公演です。参加者からは「コントが面白くて大笑いできた」と感想がありました。2023年度は前年度より活発な活動をしていきたいです。

手をつなぐ杜の会 事務局長 三石 諭

伊那谷健康友の会 総会

5月13日
(土) 県公民館にて第33回伊那谷健康友の会総会が行われ53人が参加しました。

総会は2部構成で行い、第1部では2022年度総括として感染対策を行いながら班会を再開した取り組みが報告されました。2023年方針は、コロナ感染が広がった4年間で26の班が活動休止状態とな

った中で『コロナ前の活を取り戻し班会の維持発展を目指す。』をスローガンに、活動休止になった班の再開の働きかけや新たな班作りを進めていくことを確認しました。第2部では『認知症になっても暮らせる街づくり』をテーマに健和会病院の認知症看護認定看護師坂井純子さんの講演があり、認知症の基礎知識、認知症予防対策、まわりのサポートについて語られました。

健康友の会 事務局長 寺澤 由弘



ゆいの会 総会を開催

5月21日、龍江公民館で第28回ゆいの会総会が開催されました。この3年間で、コロナ禍で

かできず、久々の集合での総会となりました。今回集まってみて、やはりゆいの会が一番輝くのは総会だなーとつくづく思いました。

総会は2部構成で行われ、第1部の総会終了後第2部が開始され、まずゆいの里職員から「事例発表」が行われました。コロナ禍でもご利用者の生活を豊かにしてきた事例が発表されました。その後、今年度から運営が開始された「飯田市かわじ地域包括支援センター」の紹介が矢野寿明所長からされました。



次に「フレイル」についての講演が健和会病院PTの宮島さんからされ、最後に健康運動指導士の倉澤さんの指導で、全身を使ったストレッチ体操を行いました。たいへん盛りだくさんで、身体も動かす楽しい総会となりました。来年もぜひ集合し

ての総会ができるように願います。

ゆいの会 事務局長 福澤 宏敦

バランスボール、筋力アップ教室に
お出かけください!

●鼎支部 鼎文化センター

毎週水曜日 10:00～11:00

(8/2 はありません)

●山本支部 東平防災センター

7月27日(木) 10:00～11:00

8月24日(木) 10:00～11:00

●高森支部 高森公民館

7月15日(土) 10:00～11:00

8月19日(土) 10:00～11:00

●松尾支部 松尾公民館

7月10日(月) 10:30～11:30

8月21日(月) 10:30～11:30

●かやの木筋力アップ体操 かやの木診療所

7月10日(水) 16:00～17:00

8月 9日(水) 16:00～17:00

※どの会場もどなたでも参加できます。

問い合わせ先:

伊那谷健康友の会事務局 0265-53-7252

ご応募ありがとうございました

憲法
川柳
フェス



伊那谷健康友の会では改憲阻止の多彩な取り組みの一環として「憲法川柳フェス」を開催し憲法を守る大切さや平和への想い、平和だからこそ読める日常の風景が寄せられました。67人から165作品の応募があり、厳正な審査により10作品を選出しました。

組織課 寺澤 由弘

大原とよ子	憲法は 社会保障の 羅針盤
小田俊朗	にぎやかな 孫たちのこえ 平和なれ
北原孝枝	憲法は みんなで守ると 語りつぐ
齋藤玲子	どんどんと ふえる軍事費 へる年金
下平道子	種まいて 九条の花 咲かせよう
林順子	子の笑顔 つづく平和の 日和かな
藤本すづゑ	辛い日々 二度と嫌だな 戦争は
藤本由子	憲法で 守られ暮らす 平和な日
宮下博明	まっすぐに 生きてきたのに 今変える
松沢雪十	福豆を コロナ退治と 孫気合い



右文が次の条件で指示して作成された文書です。

「ChatGPTの医学使用の問題点」について文書を作成してください。ただし、以下の条件をお願いします。

- ①500文字以内 ②日本語で
- ③あなたは内科医師です

若干違和感がある言い回しはありますが、それなりに納得のいく内容で作成されていて驚きます。AI機能の進化を利用しつつも、医師としても人間としても、考えることを放棄しないように、これからも頑張っていきたいと思います。

原 悠太

健和会病院透析センターセンター長

ChatGPTの医学使用の問題点

最近話題となっているAI(人工知能)チャットボットのChatGPTは、医療分野での利用が増えていますが、その使用にはいくつかの問題が存在します。私は内科医師ですので、以下にいくつかの主要な問題点をご紹介します。

①情報の正確性と信頼性: ChatGPTは大量のデータから学習されていますが、情報の正確性と最新性には限界があります。医学は絶えず進化しており、新たな研究やガイドラインが定期的に発表されます。ChatGPTはそれらの最新情報にアクセスできないため、時には古い情報や推奨されない方法を提供する可能性があります。

②診断の限界: ChatGPTは症状に基づいて診断を提案できますが、医学的な診断は個々の患者の詳細な評価や臨床的な経験を必要とします。ChatGPTはそれらの要素を欠いているため、正確な診断を提供することは難しいです。医師の診断は病歴、身体検査、追加の検査結果など多くの要素に基づいて行われます。

③患者の個別のニーズへの対応の限界: ChatGPTは一般的な情報やアドバイスを提供できますが、患者の個別の状況やニーズに対応することは困難です。患者の病歴、既存の疾患、アレルギーなどの個別の要素は、適切な診断や治療計画を策定する上で重要です。

④法的・倫理的な制約: 医学的な判断や診断は、法的な責任や倫理的な配慮が伴います。ChatGPTはそれらの制約に縛られておらず、その回答は医師の判断と異なる場合があります。医学的な判断には専門的な知識と経験が必要であり、ChatGPTはそれを代替することはできません。

結論として、ChatGPTは一般的な情報提供や質問に対する回答に役立つことがあります。医学的な診断や治療計画については医師の専門的な判断と経験が不可欠です。ChatGPTを利用する際には、その限界を認識し、専門家の助言や意見を重視することが重要です。

読者の声 & パズル

***パズル** 郵便はがきに住所、氏名、解答を書いてお送りください。
正解者には記念品(図書券)をお届けします。(締め切りは7月末日必着 正解者多数の場合は抽選)
***本誌のご感想、ご意見**をお書き添えください。本誌に掲載させていただく場合があります。
匿名希望者はペンネームをお書きください。
【宛先】〒395-0801 飯田市鼎中平 1905-5 飯伊民医連

読者の声

小平先生の「たこつぼ心筋症」のはなし

とても興味深く読みました。人間の繊細さを感じます。最後の「他者には知らない」みな今を生きている。「こういうことを感じられる人でいたいと思います。」(しばいぬ)

たこつぼ心筋症のお話が残りました

子どもが生まれてからいろんな病気を知ることになり、この世の中にはたくさん難しい病気があると気づきました。勉強になるので、毎回違った病気を記事でふれてほしいです。(ゆう)

最近高血圧の状態が続いています

また、かかりつけの歯医者さんが閉院してしまい転院をせまられたりしています。

色々な身体の心配事を一ヶ所で相談に乗ってもらえたらラクなのにと考えながら、時間だけが過ぎてゆきます。(ロン)

キャベツのお好み焼き風卵焼きを早速作ってみました

材料は全て手元にあったので、らくらく作ることができ、味も見た目も最高に仕上がりました。目先の変わった料理にパートナーもご機嫌でした。ちなみに卵は自家産だったので黄色が濃くておいしかったです。(ガンバルゾーさん)

奨学生募集のコーナー見ました

地元のためにとっても良い活動だと思いました。なぜ医学生に出ないのか不思議に思いました。(メガネ)

編集者よりーご意見ありがとうございます。医学生は長野県民医連が窓口になっている等もあり今回は掲載しませんでした。今回は掲載しませんが、健康と会病院へお願いします。



このすばらしいふるさとー伊那谷ー(林の杜からみた風景：貼り絵) 林の杜ダイケア作品

クロスワード パズル

飯伊民医連

1		2		3	
		D			C
		4	5		
6	7				8
			9	10	
11		12		A	
		B			
14				E	

解答

A	B	C	D	E
---	---	---	---	---

タテのカギ

- あの人たち。あの人々。
- 電気や火を消した後の、冷め切らない熱。
- 金より少し軽く、白色のつやを持った金属。シルバー。
- 相手を打ち負かすこと。
- 体や心に異常がなく、元気なさま。
- 流行にかかわらず常に一定の売上げが期待できる商品。
- 模様。体の大きさ。性質や感じ。ふさわしい立場や性質。
- 田舎。生まれ育ったところ。「〇〇帰り」
- 墨のような色。

ヨコのカギ

- 仕事などに携わること。事件などに関わりを持つこと。
- 人と付き合う上でしなければならないこと。「〇〇人情」。
- 品物売り買いするときの金額。
- 卓球でボールを打つのに使うもの。
- 水や薬などで、のどや口をすすぐこと。
- 国が他国との通商・交通を禁止、または強く制限すること。
- 雌の馬と雄のロバの合いの子。
- 帳簿に記載すること。

5月号の解答ーコウサテン
5月号の当選者ーたくさんの方に応募いただきました。
正解者の中から抽選で次の方々に図書券をお送りしました。
原千代子／ねずみちゃん／氣質澤美子／斎藤美枝子／ソック

飯伊民医連だより

7

No.249
改題 第102号

発行 飯伊民医連 長野県民主医療機関連合会飯伊地域連絡会
〒395-0801 長野県飯田市鼎中平 1905-5
Tel 0265 (52) 5490 Fax 0265 (52) 5491

編集 機関誌編集委員会
発行責任者 織野 孝司
編集委員長 佐藤 功